

目指す学校像	「笑顔輝く 楽しい学校」 ～ 「凡事徹底」 + 3つのC(Challenge・Chance・Change) = 楽校 ～
--------	--

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現 2 豊かな心の推進と安心・安全な教育環境の整備 3 コミュニティ・スクールによる連携・協働 4 「凡事徹底」、3Cを合言葉に協働共励の組織づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。また、国語の記述式において、前年度と比較して、記述式の無回答率が下がり、改善傾向が見られた。 ○市の学習状況調査では、学びに向かう力の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ算数・理科で高く、国語・社会で低い学年がある。 ○コンピュータを活用して、学習内容の理解度や興味・関心に合わせて学習することに意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○どの学級にも、集団での学習に困難さを抱えていたり、学びに向かう力に課題があったりする児童が見られる。 ○獲得した知識や技能を活用して、問題を解決しようとする力に課題のある児童が見られる。 ○市の学習状況調査では、国語の「読むこと」の領域において市平均を下回っている学年がある。	・主体的・対話的で深い学びの実現 「学力向上に関する取組」	①児童が考えを友達と共有しながら、自身の思考を深めることができるように、全教員が「学びのポイント」(じしゃく)を活用した授業を展開する。 ②学習の面白さ、達成感、学習したことと生活の結びつきを感じることができるよう、探究的な学び、個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る。 ③きめ細やかな指導の充実を図るために、5・6年生の教科担任制と3・4年生の学年内交換授業を展開する。 ④児童が新たな学びにつなげることができるよう、授業の最後に、自らの学びを振り返る時間を設定する。 ⑤「読むこと」について、学習の展開の中で、読む視点を絞って読み取る学習を行う。	①②学校自己評価に係る児童・教員アンケートにおいて、「自ら学び考えるなど進んで学習に取り組む」「探究的な学びに向けた授業の工夫」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③学校自己評価に係る児童・保護者アンケートにおいて、「分かりやすく教えてくれる」「分かりやすいよう工夫して指導」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ④学習のめあてや振り返りの記入できる学習の手引き的なカードやノートなどに学習の振り返りを書くなど、児童が、自分の学びを振り返り、次の学びにつなげているか。 ⑤読解力に関する問題において、正答率を1学期当初と比べ、向上させることができたか。				
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「人が困っているときには、進んで助けている」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均を上回っている。 ○上級生が下級生を気にかけていたりするなど、学年を超えて仲よくできる児童が多い。 〈課題〉 ○学校自己評価に係る児童アンケートにおいて「悩みや困ったことが起きた時、誰かに相談できる」の質問に否定的な回答の割合が、他の項目と比べ高く、多面的な児童理解と適切な支援を行う必要がある。 ○市の学習状況調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問において、肯定的な回答をした児童の割合が市の平均を下回る学年があった。 ○廊下歩行に課題がある。	・豊かな心の教育の推進 「安心・安全に関する取組」 ・安心・安全な教育環境の整備 「安心・安全に関する取組」	①代表委員会を中心とした「あいさつ運動」と豊かな仲間意識を育むための、異学年集団による交流活動「ハッピータイム」を展開する。 ②子どもたちの自発的な気付きや行動を促すために、子どもたちとの対話を大切にしながら、コーチングの手法による教育実践を行う。 ①児童主体による廊下歩行の啓発活動を行う。 ②生徒指導・教育相談に係る校内委員会の情報を基に、児童の状況を細やかに把握・分析し、SC・SSW・外部機関等と連携して組織的に誠実かつ適切な支援・相談を行う。	①学校自己評価に係る児童・保護者アンケートにおいて、「あいさつ」「友達と仲よく生活」の項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童・保護者アンケートにおいて、「よさを見つけ認め伸ばす指導」の項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ①学校自己評価に係る児童アンケート「安全に気を付けて生活している」と回答する児童の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童・保護者・教員アンケートにおいて、「教育相談」に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。				
3	〈現状〉 ○学校運営協議会で、子どもたちのコミュニケーションにおける課題について、3者で共有を図った。また、学校運営協議会を主体とした「あいさつ運動」が家庭・地域でも定着してきている。 ○教育活動を、積極的に保護者に公開したり、学校だより等で本校の取組についての情報発信を行ったりできている。 〈課題〉 ○子どもたちのコミュニケーション力向上に向けた具体的な取組を推進する必要がある。 ○コミュニケーション力以外の子どもたち、学校における課題の共有を図っていく必要がある。	・コミュニティ・スクールによる連携・協働体制の構築 「開かれた学校づくりに関する取組」	①学校運営協議会の情報を学校だよりや学校HPで積極的に発信し、取組等を広く、家庭・地域と共有する。 ②コミュニティ・スクールを核として、子どもたちのコミュニケーション力向上に係る取組を展開する。 ③学校運営協議会で、「学力向上」「体力向上」「自主性」など、コミュニケーション力以外の子どもたち、学校における課題について、幅広く熟議を行う。 ④小中一貫教育の取組、保幼小連携の取組を展開する。	①学校自己評価に係る保護者・教職員アンケートで、「学校運営に関して、学校・保護者・地域が連携・協働して、子どもたち成長を支えている」と回答する割合が90%以上となったか。 ②子どもたちのコミュニケーション力向上に係る取組を実施できたか。 ③コミュニケーション力以外の課題について熟議を行い、共有できたか。 ④「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消に向けた、保幼小連携及び小・中一貫教育の取組を充実させることができたか。				
4	〈現状〉 ○エバンジェリストが中心となりICTの効果的な活用についての研修を実施し、日常的に授業で活用できる教職員が増えた。 ○市の職場環境についての意識調査では、「職場で教職員が協働し合う体制が整っていると感じていますか」の質問において、肯定的な回答の割合が100%だった。 〈課題〉 ○研修を通して、「自律的に学び続ける力」「新たな課題に対応できる力」「協働的に課題解決できる力」を育成し、教職員の資質向上につながる必要がある。	・「凡事徹底」を合言葉に協働共励の組織づくり 「教職員の資質向上に関する取組」	①個別最適な学びと協働的な学びの授業の在り方について、外部講師を招聘した研修の実施と研究を推進する。 ②少人数グループ内で授業を見合いながら、授業改善を行う。 ③低中高学年ブロック・本部に1人ずつエバンジェリストを配置し、エバンジェリストからの個別最適な学びにおける各教員への課題提示と各教員の授業実践を行う。 ④協働体制を強化するために、教科担任制、各ブロック学年の副担任制による教職員の情報共有を活性化させる。	①②少人数グループの授業実践を各教員が年2回実施したか。また、学校課題研修を通じて、少人数グループの取組の共有を学期1回、個別最適な学びと協働的な学びの授業スタイルを1月末までに確立できたか。 ③学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「ICT機器の活用を意識した授業を行っている」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ④市の職場環境についての意識調査において、「協働体制」の項目の肯定的な回答の割合が95%以上だったか。				